

令和6年度小中一貫教育 実践報告書

中学校区名： 名張中学校区
報告(作成)者： 山村 浩由

◎は本年度から新たに取り組んでいること

取組	本年度の主な取組
中学校区としての、本年度のめざすもの、ゴール、力を入れて取り組むこと	◆めざす児童・生徒像である「自分で考えて行動できる子」「自他を大切にできる子」の育成をめざす。 【本年度の重点取組】 グランドデザインの一部を改訂し、以下の点について重点的に取り組む。 ○家庭学習習慣の確立・基礎学力の定着・論理的に考える力の育成・学習規律の確立 ○不登校をはじめとする児童生徒の状況を把握共有し、小学校内での学年間、小中間の確実な伝達、QUを活用した未然防止や学級集団づくり ○キャリア教育の視点をもった授業の実践及びキャリアパスポートの懇談等での活用 ○系統的な部落問題学習が実施できるよう教職員の学習の機会の確保
本年度の、推進のための組織や会議及びその日程内容	【組織】 運営委員会(校長+代表教頭)年6回 担当者会(教頭・小中一貫教育担当・事務職員代表)年5回 部会別代表者会(校長・教頭・各部会部長)年2回 合同研修会(全教職員)年2回 【会議日程等】 4月15日-第1回運営委員会 前年度の課題の共有および本年度の方針の確認 5月2日-第1回担当者会 部会別代表者会および合同研修会に向けた準備 5月20日-第1回部会別代表者会 合同研修会にむけた準備 6月5日-第1回合同研修会 6月20日-第2回運営委員会 第1回合同研修会の振り返りと夏季合同研修会の企画 6月28日-第2回担当者会 夏季合同研修会の準備 8月21日-第2回合同研修会 10月1日-第3回担当者会 夏季合同研修会の振り返り 10月7日-第3回運営委員会 夏季合同研修会の総括と2学期以降の取組 12月9日-第4回担当者会 2学期の取組総括 12月16日-第4回運営委員会 2学期の取組総括と第2回部会別について 1月27日-第2回部会別代表者会 本年度の取組の総括と来年度に向けて 2月10日-第5回担当者会 本年度の取組の総括と来年度に向けて 2月21日-第5回運営委員会 本年度の取組の総括と来年度に向けて
教職員の意識向上のための取組	○全教職員対象の名張中学校区小中一貫教育合同研修会の実施(年2回) ○「学力向上部会」「人権・同和教育部会」「生徒指導部会」「キャリア教育部会」「連携・協働部会」の5部会編成による教育課題へのアプローチ ○5部会の部会別代表者会の開催による主体性の育成(年2回) ○事務職員の部会を「連携・協働部会」と改め代表者が担当者会議に参加 ○小中間の互いの乗り入れ授業の実施(◎中から小への乗り入れを追加) ◎グランドデザインの一部改訂 ◎校区校長による授業参観(運営協議会と兼ねて実施) ◎児童生徒アンケートの実施(昨年度末に小学校が実施、本年度1学期に中学校が実施) ○小中間の教職員の交流や情報交換
9年間を見通した教育課程の編成	○名中校区版一貫基本カリキュラムに基づく、9年間を見通した系統性・連続性のある授業 ○「学びの心得」にもとづいた小中一貫した学習規律の確立 ○名張中学校区人権教育カリキュラム及び部落問題学習系統表に基づく実践 ○キャリアパスポート(共通様式)の使用と懇談等での活用 ◎中学校区でSSTの導入(講師による研修、SSTの本を校区で共同購入)
家庭・地域との連携・協働の推進	○「家庭学習の手引き」の配付 ○学校だより・学校ホームページにより発信 ○学校運営協議会において紹介 ◎市主催の名張市小中一貫教育推進シンポジウムに名張中学校区として参加 ○家庭学習チャレンジウィーク(ノーマディアデーの設定と家庭への協力依頼)

小中合同の教育活動の活性化	○乗り入れ授業の実施（◎中から小を追加:体育・英語） ○新中学1年生授業参観と旧6年担任との懇談 ○もみじのつどいを中学校で実施 ○入学説明会を中学校で実施 ○中学校教諭による6年生授業参観と児童についての情報共有（懇談）
小中の教職員の連携・協働の推進	○個別の教育支援計画や個別の指導計画の共有及び支援の在り方の検討 ○子ども理解のための情報共有と指導・支援の一貫性による不登校の解消 ◎小学校におけるQUの状態を中学校へ共有
その他	◎児童・生徒アンケートの実施と検証

＜主な成果＞

名張中学校区の教職員が顔を付き合わせて、お互いを知りながら取り組んでいくことは、とても意義あることであり、限られた範囲ではあるが、乗り入れ授業も効果的に取り組んでいる。以下、各部会別に記載する。

○中学校区で全国学力・学習状況調査の分析による弱みと強みを分析・交流し、中学校区としての取組を検討することができた。【学力向上部会】

○小中学校の教職員間でお互いに信頼関係を構築し、生徒の様子について情報交換できることはありがたい。（QUやSSTの取組は有効である。）【生徒指導部会】

○改めてキャリア教育の意義が確認できたこと、児童生徒の実態に応じて計画や内容を変更することができたことがよかった。【キャリア教育部会】

○差別の現実から深く学び、部落問題学習の進め方についても、取組としてはよかった。【人権・同和教育部会】

○教材の利用状況の確認を進めることで、学校集金の保護者負担軽減につなげられないか、児童生徒が安心して学べる環境整備の糸口を探ることができた。【連携・協働部会】

＜主な課題＞

本年度から小中一貫教育に関わる児童生徒アンケートを実施しているが、小中一貫教育の取組の成果をどのようにして検証していくか、また、保護者への周知や理解をどのようにして進めていくか検討する必要がある。以下、各部会別に記載する。

○家庭ではゲームやスマホをしている時間が多く、家庭学習の定着に力を入れて取り組む必要がある。また、学力向上部会とキャリア教育部会が内容に応じて連携していく必要がある。【学力向上部会】

○若手教員が多くQUの見方やその活用の仕方の研修が必要である。SSTの発達段階に応じた系統だった取組となるのが理想だが、小学校ではなかなか時間が取りにくい。【生徒指導部会】

○キャリアパスポートの取り組み方の再検討や、ファイルに残すものを精査していく必要がある。中身を重視し児童生徒や教職員の負担にならないよう、また、残すことが目的にならないよう、児童生徒の自己理解につなげたい。【キャリア教育部会】

○夏の合同研修会の講話では、もう少しテーマを絞ってお話しをして頂いた方がよかった。【人権・同和教育部会】

○学校集金未納の問題への対応に苦慮している。保護者負担軽減の取組も進めていく必要がある。【連携・協働部会】

＜来年度に向けての方向性や新たな取組（改善策）＞

年間2回の合同研修会など教職員の交流を大切にしながら、効果がある乗り入れ授業などを継続して進め、小中一貫の取組の定量的・定性的な評価の在り方を検討していく。以下、各部会別に記載する。

○チャレンジウィークの取組を充実させ、プリントを用意するなどして自主学習に取り組ませるとともに、振り返りをさせる。（振り返りの項目の検討も行う。）【学力向上部会】

○QUやSSTの取組は引き続き取り組んでいく。市教委の指導主事によるQUの研修を実施してはどうか。SSTは小学校でどのように取り組んでいくか検討していく。ダフレットの使い方、SNSのルールの指導を小学校の段階から取り組んでいく。【生徒指導部会】

○各校でのキャリア教育について、取り組んでいる資料をお互いに見ながら、できたこと、できなかったことも含めて、具体的に交流していく。また、高校でどのように活用されているかを把握していく。【キャリア教育部会】

○9年間の人権教育カリキュラムを見直したり、部落差別について、各校がどのような教材で、どのように授業をしているのか、具体的な内容について交流していく。【人権・同和教育部会】

○活力ある学校づくりを目指した教育環境整備、地域資源を効果的に活用する学びの支援、情報共有と学校運営参画の3つについて重点的に取り組む。【連携・協働部会】

※記入枠については、セルを広げて記入しても構いません。

＜提出期限＞令和7年2月6日（木）学校教育室まで E-mail k01_gakukyo@nabari-mie.ed.jp